

(6) 久万高原ブロック（久万高原町）

～産地づくり～

生産者の高齢化が著しく進行するなか、夏季冷涼な気候を活かした夏秋野菜における新たな生産者の確保・育成や生産技術の向上による産地振興を図ります。

また、単収の低い農家の要因分析とその課題解決に向けた対策の推進や技術指導強化等を図ることで、安定した生産量を確保するとともに、生産者の高齢化に対応できる省力化技術の導入や、労働力の確保対策を講じながら、産地の規模拡大を図ります。

～推進品目や産地づくりの方向～

○若手生産者を核としたトマト産地の復活

【取組】

- ① 産地復活支援として、久万高原町営農支援センターを拠点とした新規就農者等の確保や栽培技術向上を目指した勉強会の開催 [図1]
- ② 平均単収の向上を目指すため、単収が伸びない生産者の要因解明と個別巡回による改善指導を実施
- ③ 新規就農者の単収向上を図るため、作成した技術マニュアルを活用した個別指導を実施 [図2]
- ④ 農業公園研修生や新規就農者等に対し、夏場の生産・品質安定対策を指導

【成果】

- ①
 - ・ 農業公園研修生を新規で3人確保
 - ・ 研修生を対象とした勉強会（5回）を通じて、トマト栽培の基礎技術が向上
- ② 適期のつり下げ・腋芽取り・下葉取り等の指導により生産技術が向上
- ③ 生育状況に応じた栽培技術指導（8回）を通じて、遅れることなく栽培管理、病虫害対策を実施
- ④
 - ・ 来年度、細霧冷房システムを2人導入予定
 - ・ 高温や流通を踏まえ、硬系品種の適応性を検討



[図1] 研修生向けの勉強会



[図2] トマトの栽培技術指導



[図3] 栽培講習会の実施

○ピーマン栽培における省力化の推進と産地の規模拡大

【取組】

- ① 基本技術の徹底と労力に見合った栽培方法を提案するため、栽培講習会、個別巡回、定点調査（10回）による技術指導を実施 [図3]
- ② 日射制御型自動灌水装置による局所施肥試験区を設置し、灌水、化学肥料の使用量削減及び作業の省力化の検討
- ③ 新規栽培者の確保

【成果】

- ①
 - ・ 部会平均収量：6.5t/10a [R6：5.4t]
 - ・ 出荷量：448t [R6：403t]
- ② 施肥方法の違いで生育及び収量に差異はなく、施肥時間は10aあたり、固形肥料施肥より約50時間、液肥かん注より約119時間の施肥時間短縮を確認 [図4]
- ③ 次年度新規栽培者：4名



[図4] 局所施肥試験実証ほ

～地域づくり～

就農希望者に対し、町の農業研修制度を活用して、トマト栽培や経営管理等の研修を実施します。若い新規就農者には、青年農業者組織での活動を通して地域内外での仲間づくりを支援するとともに、スムーズな地域への就農と定着に努めます。

また、規模拡大を目指す農家等に対し、スマート農業等省力栽培技術の導入を支援するとともに、地域計画の実現に向けて農地の集積を図り、地域の担い手として育成します。

夏季冷涼な気象条件を活かした夏秋期の出荷品目や土地利用型作物（加工用野菜、雑穀、さといも等）の拡大・活用等による農業所得の向上と地域の活性化を図ります。

営農に関する情報共有システムを構築し、映像によるリアルタイムな情報交換と現場の課題解決を図るため、高速情報通信網の活用を含めたスマート農業の導入を推進します。

○地域農業を支える新規就農者の確保・育成

【取組】

- ① 就農相談会（大阪）への参加による就農候補者の確保
- ② 町の研修制度を利用した、栽培技術や経営管理等の研修機会の創設による、就農候補者に対する就農への後押し
- ③ 関係機関が一体となり、講習会や生育調査を兼ねた巡回指導等による新規就農者に対する就農定着の支援
- ④ 若い就農者に対する青年農業者組織への加入促進や、集団活動を通じた仲間づくりの支援のほか、広報誌での紹介や栽培技術の情報交換等を通じた、交流による地域への定着支援、青年農業者を対象に勉強会・情報交換会を開催（4回）[図5][図6]

【成果】

- ① 久万高原地域のトマト栽培の魅力を就農希望者（2人）に紹介
- ②
 - ・新たに3人が農業研修を開始
〔R6：2人、R5：3人、R4：4人、R3：3人〕
 - ・新規就農者：7人（うち、トマト栽培：5人）
〔R6：5人、R5：4人、R4：2人、R3：3人〕
- ③ 就農3年後の定着率100%を維持
- ④ 青年農業者組織への新規加入数：3人
〔R6：2人、R5：7人、R4：4人、R3：3人〕



〔図5〕 広報誌掲載



〔図6〕 若い経営者大会において
意見発表部門最優秀賞



〔図7〕 にじのきらめきの草姿



〔図8〕 後期管理講習会

○担い手型水田農業の推進

【取組】

- ① 1等米比率の低い「あきたこまち」に代わる品種として、高温登熟性に優れた「にじのきらめき」の実証ほを設置し、地域適応性の比較・検討を実施[図7]
- ② 水田農業に取り組む担い手に対し、水稻の生育調査、病虫害一斉調査（7、8月：2回、118か所）、後期管理講習会（7月：26か所、83人）等を通じて高品質化を支援[図8]

【成果】

- ① 収量は、768kg/10aで「あきたこまち」（486kg/10a）より大幅に増加し、地域適応性を確認
- ② 管内の1等米比率：94.2%〔R6：94.7%、R5：91.6%、R4：98%〕

○6次産業化の推進

【取組】

- ① 雑穀の生産振興支援のため、新規栽培者に種苗を配布するとともに、生産量確保と道の駅や実需者への出荷促進を目的とした「雑穀栽培研究会」の設立及び栽培講習会（1回）の実施[図9]
- ② 雑穀を用いた郷土料理の伝承に係る料理講座の開催
- ③ 雑穀を用いたメニューの提供及び新たな商品開発の支援

【成果】

- ① 雑穀の栽培面積：260a〔R6：250a、R5：230a〕
生産者：29人〔R6：23人、R5：17人〕
- ② 雑穀を用いた郷土料理について、町内学校や幼稚園の児童・園児及び町内在住者に伝承
- ③
 - ・雑穀を用いたメニューを町内の飲食店等3施設で提供
 - ・町内事業者等が地とうきびの粉（はなこ）を用いた「はなこねり汁」を商品化、町内の道の駅で4月から販売開始[図10]
 - ・上浮穴高校がはなこを用いた「くまサブレ」を商品化、大洲市の菓子店で試験販売開始（不定期）



〔図9〕 雑穀栽培講習会



〔図10〕 はなこねり汁

～基盤整備による担い手への農地集積の加速化と果菜類の産地規模拡大～

○農業用水の安定確保と担い手への農地集積

【取組】

- ・高齢化や人口減少による担い手不足と荒廃農地の発生を食い止め、担い手への農地集積や新規就農者の定着と、トマトやピーマン等の夏秋期果菜類の産地規模拡大、出荷品目の増強を後押しするため、農業用水の安定確保と農作業の省力化や効率化につながる用水路のパイプライン化を2地区で、水田の汎用化を図る暗渠排水の設置を1地区で実施

【成果】

- ・用水路のパイプライン化工事完了
ナベラ地区：L=1.5 km [図11]
永子地区：L=1.5 km
- ・暗渠排水設置工事完了
永子地区：A=0.4 ha [図12]



〔図11〕用水路のパイプライン化管路施工状況（ナベラ地区）



〔図12〕暗渠排水の設置状況（永子地区）

～足腰の強い畜産業を振興します～

○足腰の強い畜産業の振興

1 四国カルスト牧場の取組み

【取組】

- ① 放牧衛生指導指針に基づき、放牧牛の定期的な衛生検査（健康チェック）による疾病等のまん延防止対策の指導のほか、繁殖雌牛の繁殖指導を実施
- ② 牧場の家畜収容力の維持、向上を図るため、有害雑草の駆除や草地の改良指導を実施

【成果】

- ① 延べ142頭の衛生検査を実施し、疾病等のまん延防止対策に関する意識の向上、牧場の清浄性を確保 [図13]
- ②
 - ・久万高原町、農協と連携し、放牧地の掃除刈りを行い、雑草を防除し、放牧に適した植生を維持
 - ・放牧地の草生調査を行い、牧草の栄養価に基づく飼養管理、繁殖の指導や草地の改良を実施

2 媛っこ地鶏の取組み

【取組】

- ・R5年度に新規就農した1名に対し、飼養管理及び衛生対策技術について、指導助言を実施 [図14]

【成果】

- ・基本的な飼養管理、衛生対策の指導助言を実施したほか、R7年度は、夏季の暑熱対策や飼料コストの低減を重点的に指導

3 家畜伝染病侵入防止の取組み

【取組】

- ・飼養衛生管理基準の遵守徹底を図るため、定期的に巡回指導を行うとともに、関係機関と連携して 防疫研修会を開催

【成果】

- ・10月に防疫研修会を開催し、関係者の意識向上と万一の際の作業手順を確認 [図15]
- ・農家巡回を実施し、家畜伝染病等に関する技術情報を提供したほか、飼養衛生管理基準遵守の実効性を確保



〔図13〕四国カルスト牧場での衛生検査



〔図14〕媛っこ地鶏の指導



〔図15〕防疫研修会